

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271600508		
法人名	有限会社 ハッピーファミリー		
事業所名	グループホーム大社 (結)		
所在地	出雲市大社町中荒木八通2617-85		
自己評価作成日	平成22年7月23日	評価結果市町村受理日	平成22年9月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou-c.fukushi-shimane.or.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ワールド測量設計		
所在地	島根県出雲市荻苅町274-2		
訪問調査日	平成22年8月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御家族様が遠方におられる利用者様が多く精神面、体調面で不安を抱えていらっしゃるの
で、利用者様の状況を見ながら都度声を掛けていき寄り添い、不安にならないように支援し
ていまま遠方におられる御家族様とも密な連携の取り合いができており、利用者様も安心され、
職員との信頼関係も築いています。日常生活の活動については、家事などに参加して頂ける
場面が少なく、活動される方の偏りもある為今後、活動して頂ける場面作りが出来るよう取り
組んでいきたいと思ひます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は理念を念頭に置き日々、理念に沿ったケアができていないかを考えながら実践している。また、月末に振り返りと次月の取り組みを作成し、支援へとつなげるように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	馴染んだ地域や人々といつまでもふれ合いが保てるように支援している。地域の清掃活動に参加したり、近くのスーパーに買い物に出かけ地域の人達と挨拶を交わしたり話をしたりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事務所の広報誌にて日々の生活の中で利用者の方の出来ることや思いを掲載している。自治会、地域団体等へ送付したり、利用者の方と共に各関係先へ持参している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、利用者やサービスの状況の報告、説明を行い、それに関しての話し合い、意見をもとに今後のサービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は出雲地域認知症GH連絡協議会の役員でもあり、協議会との交流や、市町村担当者との連絡を密に取り、連携が図れるように取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや日々の申し送り時等に、利用者に職員の意見を押しつけていないか、利用者の意思を尊重しているかの確認を行っている。玄関及び非常口も夜間は施錠するが、日中は全て開放してある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は月1回会議内の研修において虐待の事例などを学び、言葉の暴力も虐待にあたることなど勉強している。利用者のヒヤリハット、事故報告書も次につなげ細かいことにも見逃さないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に制度を活用している利用者もあり、活用に至るまで段階的に利用者の担当や関係者が必要な話し合いを行い、活用に至っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については利用者、家族に納得するまで説明を繰り返し、不安の解消に努めている。また身体的に自立がむずかしくなりかけていることに心配する家族の相談にも安心してホームの生活が可能との説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には市町村、包括支援センター、民生委員も出席し、家族の意見は周知している。出席した関係者より解決策を出してもらい今後の運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見、要望はユニットリーダーから主任へと進め、判断しにくい例は管理者へつなぎ、的確な指示を仰ぎ運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新人職員には不安なことを尋ね、仕事が配慮しやすいようにしている。体調を崩したり家庭事情で休む職員のフォローも行き、円滑に業務が遂行できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修には、実践者研修、リーダー研修、その他研修に積極的に参加できるように取り組んでいる。また、職員会議においても内部研修の場の場を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会や研修後の懇親会などで交流を深めたり、事例発表等の勉強会にも積極的に参加させ、他の事業所の取組みなども勉強したり介護者同士悩みを話し合い今後の活力を養っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員で訪問して生活の様子や、不安などを聞くようにしている。ホームの見学もいつでも出来るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時には、御家族からの質問や意見をしっかりと聞き、安心、納得して頂けるように努めている。そして次の段階の相談につなげていくように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には、柔軟な対応を行っている。その方に応じた施設の紹介もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が利用者の出来る力を奪ってしまいがちになり管理者より基本理念から外れがちなケアの指摘を受ける。ケース会議で共同生活に参加しやすいような、働きかけを検討して実践に向け努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の必要な物品も家族の了解を得て購入するようにしているが、家族が用意して持参することもある。衣替えや寝具のクリーニングも家族が自ら行うこともある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのスーパーへ行き、知り合いの方と出会った時、お話を頂くようにしている。知人の面会も自由に出来るようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団生活の為、意見が合わず孤立する利用者は職員が傾聴したり、会話することで仲を取り持っている。利用者同士の関係性について職員が情報の共有をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事業所自体はいつでも連絡を取れる状態であるが自然と関係が遠のいている。地域内で家族と偶然に合い近況を言われることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向が反映されていない時に、ケース会議を行い、課題を揚げ本人の現在の意向、今後の取組み等、スタッフ全員が意見を出し合い、ケアの改善を検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを活用し、プライバシーに配慮しながら、本人、家族から生活歴、本人を取り巻く環境などを聞き取りケアにつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の言葉、行動、体調も業務日誌に落とし、引継ぎし把握している。また、関わりの時間を多く持つ事で、ご本人の出来る事、分かる力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段の会話から、本人の思いを聞き取り介護計画の見直しを職員全員で検討し作成をしている。家族にも見直しをする前に意向を聞き、本人にとってより良いものになるように協力を得ている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の状態や職員の気付いたことをケア記録に記入し、就業前に必ず目を通すようにしている。朝礼を含め、一日4回の引継ぎをし、情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の方の日々の変化に柔軟に対応出来るように努めている。また、体調の変化が生じた場合は、即、受診に同行、家族にも不幸があった場合にも本人が動揺せず帰宅できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練には、消防署の方も参加して頂き、安全な生活が出来るように心掛けている。また、地域のボランティアの方の来訪でより楽しみのある場が持てるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力体制を得る為にも家族の了解を得て地域の協力医へ受診している。受診には、家族の都合のつく限り同行してもらい、状況の変化の把握してもらっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	細かい変化も報告し合い受診したり、看護職が不在でも主治医へ報告をしたりと、それぞれ適切に連絡を取り合い利用者の安全に努めている。また、協力医療機関の看護師が来訪し、医師の指示で医療行為を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時、家族の到着まで職員が付き添い、必要な治療を受けられるように情報提供している。入院中は他の利用者と共に面会し、退院しても動揺の少ないようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、ご本人、ご家族の意向を踏まえ医師と相談しながら、チームで支援に取り組んでいる。終末期のケアもできること、出来ないこと」を説明し家族への説明も都度行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職場外での救命講習を受ける職員もおおり、救急時に備えている。事業所には緊急マニュアルがあり、いつでも見れるようになっている。夜間のマニュアル(避難)も検討中である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した避難訓練を行ってはいるが、実際には日中に行うため、切迫性がなく、不安な面が多い。日勤帯職員は夜間専属の職員がいるため危機意識が薄い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の声がけも、他に気づかれぬような大きさの声で話すよう職員間で話し合ったり、オムツ類の取替えも他の目につかぬように気を配っている。気にする利用者には人目につきにトイレへ誘導している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の買いたい物がある場合にはホームの買出しの時を利用して同行している。誕生日には本人希望のメニュー作りをしている。検食表にも利用者の言葉や残飯の量で良否がわかるような取組みをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームに規則がないが、利用者の安全と安心して生活が送れるようにする為の職員間の目標のようなものはある。利用者全ての意に添えないこともあるが説明して同意を得ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホームの美容室で希望に合わせて、カットや、毛染めをしてもらっている。自分で好きな服を選んで頂いたり外出には、施設を感じさせない服装に気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食料品の買出し、調理のお手伝い等を利用者の方の力や意志に応じて取り組んでいる。利用者の方がそれぞれの力を発揮して頂けるように努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養指導も市職員から受け、高齢者向けのメニューになるよう努力し、水分制限のある利用者以外は積極的に水分補給している。食卓には急須、ポットが置かれ、いつでもお茶が飲め、時にはジュース等目先を変えて飲まれる工夫をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き、うがいの声かけをして見守ることにより実行できる方が増えつつある。夜間は義歯をはずしてもらい、職員が洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ホームでおむつの半減を目標に掲げて記録から排泄パターンを把握して誘導をかけ、心地良い生活が送れるように支援している。夜間にも積極的にトイレ誘導できればもっと良い。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ下剤に頼らぬように水分摂取量を常に心掛けている。野菜を多く取り入れた献立に配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の好みはそれぞれだが、好まない利用者には衛生面に配慮し声かけをして入浴をしている。希望する時間はあるが、全ての希望は叶わないが入浴後気持ちが良かったと喜んでもらえるような支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠のために、日中は体調をみながら適度に活動して頂くように努めている。また、昼寝の時間も確保している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変更時には症状、効能について詳しく日誌に記載し職員全員で把握している。職員が手渡しによる服薬確認を間違いがないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌の好きな方など意識をして場面作り心掛けています。ドライブ外出や外食などへの参加も計画にあげ、単調な生活にならないようにしている。本人が行きたいところは家族からの制約があり叶えられないこともある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日食材の買出しを利用者に声掛けして同行してもらい普段の運動不足を補っている。外出を好まない利用者は、家族と温泉へ宿泊し楽しませている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を手元を持っておられる利用者などがおられ、本人と一緒に買い物に出かけ金銭を使える場面作りをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方が電話を日常的に利用できるようにプライバシーに配慮しつつ支援している。年賀状に住所や宛名書きをして家族、知人に出している。できない利用者は代筆している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	静かな口調で話したり、職員が走った姿を見て利用者の落ち着きを乱さぬようお互い注意し合っている。テレビや音楽の音量が大き過ぎたり、かけっ放しにしないようにしている。逆に不自然に静か過ぎてないか配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内のソファや玄関ホールに椅子も設置されており、疲れた体を休めたり、涼みに出て外を眺めたり、その時の気分で行動している。また、和室もあり、数名で昼寝をすることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていたタンスやテレビを自由に自室に持ち込んでもらっている。また、遺影や仏具を持参、家族写真も飾り、家族を忘れないように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認知症により今まで使用していた部屋がわからず混乱する利用者には不安のないよう説明を繰り返している。		